

横浜市歴史博物館 YOKOHAMA HISTORY MUSEUM NEWS News

2020.3
No. 48

4月1日
リフレッシュ
オープン!!

横浜市新市庁舎完成記念
三館連携展示を実施します

明治・大正
ハマの街

新市庁舎建設地・洲千島遺跡

〔館長コラム vol.7〕最終回…?

館長が行く! 横歴探訪

みたび大壁建物に現れた渡来文化の痕跡を追って

企画展余話 「“道灌以後”の戦国争乱 横浜・上原家文書にみる中世」展での新たな試み

伊勢原手作り甲冑隊の参陣!
葛西城戦士カツラギ現る!

2020年度 横浜市歴史博物館のイチオン展覧会

*展示タイトル・会期は変更する場合があります

歴史

芸術

横浜

2020年7月23日(木祝)～9月22日(火祝)

企画展「Japanese Folk Textile
日本の古布 ―東北地方を中心に―」

木綿が使われる以前から長い間人々の暮らしを支えてきた、
麻を中心とした布の生活文化を概観する展覧会。

写真:麻の布団(部分)型染

(財)会津民俗館寄託 福島県立博物館保管 渡部つとむコレクション

2020年10月3日(土)～12月6日(日)

企画展「俳優緒形拳とその時代
―戦後大衆文化史の軌跡―」

舞台・映画・テレビなどで活躍した俳優 緒形拳の足跡を
たどりながら戦後日本の芸能史、大衆文化史を俯瞰する試み。

写真:新国劇時代の緒形拳 緒形事務所写真提供

2021年1月23日(土)～3月21日(日)

特別展「横浜の仏像
―しられざるみほとけたち―」
(会期中一部展示替えあり。)

新発見・初公開を含む平安・鎌倉時代の仏像を中心に、横浜
市域に伝わる仏像を体系的に紹介する、初めての展覧会。

毘沙門天立像 平安時代後期・12世紀前半頃
真照寺(横浜市 磯子区)蔵 横浜市指定登録文化財



横浜市歴史博物館
YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

〒224-0003 横浜市中区中川中央1-18-1 Tel.045-912-7777(代表) Fax.045-912-7781

横浜市歴史博物館ニュースNo.48 2020年3月31日発行

〔編集・発行〕横浜市歴史博物館 〔デザイン〕株式会社トーン・アップ

横浜市歴史博物館は(公財)横浜市ふるさと歴史財団が指定管理者として管理運営しています。

リフレッシュオープン 第1弾 企画展
横浜市新市庁舎完成記念 三館連携展示を実施します

明治・大正 ハマの街

新市庁舎建設地・洲千島遺跡



「横浜の中心地は？」と問われれば「野毛」であると答える食いしん坊もいれば、鉄道各線が乗り入れる「横浜駅」、おしゃれな「元町」、「伊勢佐木町」などなど、人の数だけ答えがあると思います。そうした多くの答えの中には、ランドマークタワーや観覧車に代表される「みなとみらい21地区」を思い浮かべる方もいるでしょう。写真1は、まさに「みなとみらい21地区」周辺を写した航空写真ですが、水色の囲み部分にご注目下さい。

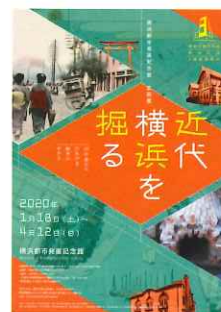
ここは令和二(二〇二〇)年六月に供用開始となる横浜市新市庁舎の建設地です。建設工事に先立って、平成二七(二〇一五)年八月から平成二八(二〇一六)年三月までの八か月間、発掘調査が行われました(写真2)。新市庁舎ができるとなると、この場所は令和の横浜にとって中心地のひとつとなることは間違いないでしょう。さらに言うと、ここはかつての横浜の中心地と言っても過言ではない場所だったのです。

発掘調査によって昔の人の活動の跡(遺跡)が見つかったと、他の遺跡と区別するために、まずは名前を付けることになります。遺跡名は、字名や地域の歴史に関連した名前が慣例として付けられることが多く、遺跡調査発表会などで遺跡名を見聞きしたとき、ずいぶん難しい名前だなと思ったことがある方もいるかもしれません。この遺跡名も非常に読み方が難しく、「洲千島」遺跡と書いて「しゅうかんじま」と読みます。

遺跡名の由来は、この場所が洲千島と呼ばれる砂洲の先端に位置し、江戸時代、横浜村の鎮守だった、洲千弁天社の社地にあたることから名付けられました。まさにかつての横浜の中心地だったのです。しかし、明治になってほどなく開港場の整備とともに埋め立てと急速な市街化が進んだ地域となりました。



三館連携ポスター



都発ポスター



開港ポスター



歴博ポスター

洲千島遺跡の発掘調査では、明治時代から大正二二(一九三三)年の関東大震災にかけての豊富な資料が出土しました。その大量の資料群について、新市庁舎のしゅん工と供用開始に合わせて(公財)横浜市ふるさと歴史財団では切り口を変えながら三館が連携した展示会を開催します。

まずは横浜都市発展記念館が口火を切り、令和二年一月一八日から「近代横浜を掘る」洲千島から広がる都市のすがた」と題して洲千島遺跡の出土資料にスポットを当てつつ近代横浜の都市形成に迫ります。

次に横浜開港資料館では「町会所から市役所へ」古地図と古写真に見る横浜の歩み」が令和二年二月一日よりスタートしました。同館が所蔵する古地図や古写真を中心に、開港直後に町の行政機関として設置された町会所や横浜市庁舎の歴史について紹介します。

そして当館では四月一日から「明治・大正ハマの街」新市庁舎建設地・洲千島遺跡」と題して、洲千島遺跡から出土した多種多様な遺物に着目し、近代になってあらたに取り入れられた技術(例えば上下水道)を中心に紹介します。

三館連携の展示会を行うにあたり、準備やPR活動も連携して行っています。ポスター作成、図録作成のための写真撮影(写真3)、昨年末には現市庁舎一階でのプレ展示の開催(写真4)など、力を合わせて連携展を盛り上げていきます。すべての展示会が観覧できるお得な前売りチケットで、三館を巡って近代横浜の面白さを体験してみませんか？

(橋口豊)



3



4



お得な前売りチケット

単券よりも
300円もお得！

伊勢原手作り 甲冑隊の参陣！



今年度の夏の企画展「道灌以後」の戦国争乱-横浜・上原家文書にみる中世-」では、展示内容に関わりつつ、さまざまな世代の方々にも親しんでいただけるようないくつかのイベントを企画しました。

一つは、七月二八日(日)の「伊勢原手作り甲冑隊」パフォーマンス&甲冑の試着体験です。伊勢原手作り甲冑隊とは、厚紙で精巧な甲冑を製作し、それを自ら着てさまざまな活動をする団体で、毎年一〇月の「伊勢原観光道灌まつり」をはじめ、各地のイベントに参加しています。博物館では甲冑隊オリジナルの寸劇「五人の道灌」上演と、手作り甲冑の試着体験をしていただきました。「五人の道灌」の始まりは、何とほら貝をふきながらの勇壮な出陣！館内のお客さまはほら貝の音に誘われて、エントランスホールでの上演を楽しんでいました。

その後は手作り甲冑の試着。厚紙を素材とした甲冑は軽いのですが、細かい所までつくり込んであり、その出来栄にみなさん驚いていました。子ども用の甲冑も二領あり、かわいらしい武者姿に歓声が挙がっていました。

二つ目は、会期最終日の七月三十一日(水)の「葛西城戦士カツラギ」ヒーローショー！です。葛西城とは戦国時代に東京都葛飾区にあった城で、カツラギは歴史の闇に潜む悪霊・幻魔と戦う正義の戦士です。イベントでは、葛西城と横浜および関東の戦国史を解説していたハカセが、突如あらわれた幻魔にさらわれ、そこにカツラギが登場して緊迫した戦いが繰り広げられました。戦いの合間には観ている子どもたちとクイズなどのやり取りも挟み、司会のお姉さんのかわいらしさと共に、大変に盛り上がりしました。



救出されたハカセと司会のお姉さん

葛西城戦士 カツラギ 現る！



二月三日(金)、港北区小机小学校を訪問し三年生二〇八人に「私たちのまちの歴史 小机城について」と題し授業を行いました。これは港北区役所地域振興課から依頼を受け、地元小中学生へ地域への愛着を深めてもらうことを目的とする事業の一環として、はじめて実施したものです。

三年生からはじまる社会科の授業では自分たちの町を調べる学習があり、小机小学校では事前に小机城についての町の方々の聞き取りを行い、みんなで「小机城カルタ」を作成していました。そこで今回の授業では子どもたちのカルタを使い、見学した小机城がどんなお城だったか思い出してもらおうとから始めました。

授業内容の中心は、小机城にお城のシンボルとなる天守閣は無く、それは戦争が頻発した戦国時代と平和になった江戸時代という時代性の違いが原因であること、はじめて天守閣を造ったのは、時代の過渡期に権力を保持した織田信長といわれること、などでした。小学三年生ではまだ歴史を学習しておらず、戦国時代や江戸時代という言葉を出して良いものか不安もありましたが、スライドを使用してクイズ形式で授業を進めたこともあり、子どもたちはすんなり理解してくれましたように感じました。最後に設けた質問コーナーではたくさんの方が「戦国時代に戦争が多くて、江戸時代になるとなくなるのはなぜですか？」や「これから戦争がおこると思いますか？」といった、難解な質問に驚かされました。最後まで質問はつき、残念ながら全員を指名することはできずに授業は終了しました。

(阿諏訪 青美)

訪問授業

私たちのまちの歴史 小机城について 実施報告



授業のようす

生徒さんから
かわいなお礼状を
いただきました！

ありがとう
ございました。

どこが変わった？ 改修工事で博物館を リフレッシュ！

二〇一九年八月より実施しております、当館史上初の大規模改修工事ですが、「どこが変わるの？」という声におこたえて（？）紙面で主な工事内容をご紹介します。

博物館には横浜の歴史を物語る貴重な資料がたくさん保管されています。それを後世に伝える建物自体もこうした改修によって寿命を延ばしていくことが必要です。今回の工事は「安全・安心・快適のためのリフレッシュ」が一番の目的です。博物館正面のコロネード（柱が並んでいる通路）とエントランスホールの天井と外壁タイルの落下防止のための改修、館内の全エレベーターの交換、みなさんにご利用いただいている研修室や休憩室のエアコンの交換、ミュージアムショップやチケット販売カウンターはキャッシュレスに対応するリニューアル、企画展示室はクロスの全面張替えやスポットライトのLED化などです。

じつは、当館は災害時には帰宅困難者の一時滞在施設にもなります。東日本大震災では大規模な施設で天井の脱落が多くみられましたが、災害時のこうした被害をなくし滞在者の安全を確保するためにも、今回のような改修工事が大切です。親しまれている三角屋根の外観はそのままに、トイレの洋式化やデジタルサイネージの導入、タブレット端末による多言語ガイドなど、時代に合わせ、多くのみなさまに快適にご利用いただくための改修もいたします。

今後も常設展示室・企画展示室への公衆WiFiや展示解説アプリの導入など、安全・安心・快適そして楽しめる博物館を目指して引き続きリニューアルを進めてまいります。職員一同、みなさまのご来館をお待ちしております。そして、普段見上げることは少ないかもしれませんが、新しくなったエントランスホールの天井をご覧ください。

（齋藤宣政）

休館中でも開催中！ れきし工房

博物館は休館中ですが、ものづくりワークショップ「れきし工房」は、会場を遺跡公園内の工房に移して引き続き開催しています。おかげさまで夏休みや週末には多くのお客様にご参加いただきました。制作のお手伝いを担うのはボランティアの方々です。実はこのボランティアさんにはステップアップ制度があります。勾玉、まゆ細工、あじろ編み、小田原ちよちんの4種類のうち1種類のものづくりにつき10人のお客様のお手伝いをするごとにブロンズ→シルバー→ゴールドとランクアップし、ゴールド4種類でマイスターとなります。そしてこの夏、記念すべき初のマイスターがおふたり誕生しました！多くのお客様のお手伝いをすればするほど、熟練の腕を持つマイスターは増えていきます。読者の皆様も「れきし工房」に参加してボランティアさんとのづくりを楽しんでみませんか？

また工房では、大塚・歳勝土遺跡ガイドの受付も行っています。公園にお越しの際はぜひ「れきし工房」・遺跡ガイドをご利用ください。お待ちしております。（小林 紀子）

工房



※4月1日からの「れきし工房」ガイドの受付は博物館内で行います。

工房での「れきし工房」



マイスターは
このバッジが
目印です！



コロネードの天井をはがしたところ



円形の
常設展示室の
外壁を覆う
見事な足場！

博物館正面側



歴博通り側



行きて帰りし 筒形土偶

今度は、群馬に行ってきたよ!

わたくし、常設展原画Iの人気者です。原出口遺跡出土の筒形土偶、今度は群馬県立歴史博物館の第100回企画展「ハート形土偶大集合!!」(2019年9月28日~12月1日)に、行ってきました。



群馬県東吾妻町郷原遺跡出土のあの有名なハート形土偶をはじめ、**これでもかと土偶が展示される中**、わたくしはハート形土偶と同時期の南関東の土偶として紹介してもらいました。



今は博物館に帰ってきていて、4月1日のオープンに備えて常設展示室にて**スタンバイ中**です!

全国を飛び回る多忙な筒形土偶に会いに来てね。



次はどこに行くのかな...

2019

9/27-10/15

街頭紙芝居の世界



① 八聖殿での街頭紙芝居(複製)の展示



② 大型紙芝居「たべられたやまんば」実演のようす
左から、福々亭バツハ、すうみん、のんきやあやや、ニコニコ亭みゆうみゆう、ゆずやなっちゃん。翌日はナッキージョージ、ちょ子ちゃんが実演しました。

アウトリーチ第2弾としては、中区本牧元町にある横浜市八聖郷土資料館(以下八聖殿)で「街頭紙芝居の世界」と題して、横浜市有形民俗文化財に指定されている当館保管の街頭紙芝居を扱ったミニ展示を行いました(写真①)。歴史博物館では展示はもちろん、街頭紙芝居の実演を大切に、これまで毎月最終土曜日に「おもしろいぞ!紙芝居」を行ってきました。八聖殿でも9/28(土)に実演と関連講座を行いました。

休館中の紙芝居実演のアウトリーチは、八聖殿のほか3ヶ所でも行いましたが、博物館隣の都筑民家園では11/23・24(土・日)に「紙芝居秋祭り」と題して、音楽や歌を交えた実験的な紙芝居に取り組みしました。このうち大型紙芝居「たべられたやまんば」では、キーボード等の楽器を駆使して効果音を加え、主人公のやまんば、和尚、小僧、そしてナレーションといった各台詞を配役し、台詞や効果音に合わせて場面を変える「抜き」役も設定するなど、演劇のように分担した実演を試みました(写真②)。囲炉裏のある広間で演じられた「たべられたやまんば」は、古民家という会場の雰囲気と効果音とも相まって、紙芝居を超えてアニメを見ているように思えるほどでした。(刈田 均)

2019

8/21-9/23

チラシ・カタログにみる昭和40年代



当館の工事休館にともなうアウトリーチ事業の第1弾として、みなとみらい線日本大通り駅直結の横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館の1階エントランスホールにて出張ミニ展示を開催しました。

横浜都市発展記念館の企画展「一枚の切符から昭和のあの頃へー思い出す横浜のイベント・ニッポンの風景」にあわせ、ミニ展示では「チラシ・カタログにみる昭和40年代」と題して、昭和40年前後の家電製品や玩具、自動車といった懐かしのチラシやカタログをポスターサイズに大きく引き延ばして展示いたしました。

今回の素材となったのは主に「チラシ」や「カタログ」ですが、そこにはキャッチコピーをはじめ、価格、セールスポイント、販売店名、PR役のタレント・俳優など、当時のさまざまな情報が記録されています。家庭の電



① 都市発展記念館のみなさんも展示作業にご協力いただきました。
② 展示風景
③ 展示の素材となった懐かしのチラシやカタログ

化が進み、それまでの手作業に比べてさまざまなものが、便利にそして楽になっていった昭和40年代ですが、チラシからはそうした利点を伝えようと競い合うメーカーの血のにじむような苦労なども垣間見えます。

家電製品などのチラシやカタログなどは、その商品を購入すると廃棄されてしまうことが多く、資料としてまともに残ることは稀です。こうして振り返ってみると、そこにはかつての世相や人々の暮らしぶりを読み取ることができ、懐かしむだけでなく、子ども達にも昔の電化に沸いた人々の様子を伝えることもできます。おかげさまで今回のアウトリーチのミニ展示はご覧いただいた方にご好評をいただきました。今後、当館でも規模を拡大して開催していければと考えております。

(羽毛田 智幸)

2019
11/28-12/10

つね さぶ ろう もろ み ぐら
中山恒三郎家書院及び諸味蔵公開



- ① 来場者に説明される
中山健さん
- ② イベントでの様子
- ③ 書院にて公開の様子

2019年11月28日から12月10日（12月2日は公開休止）まで、中山恒三郎家（都筑区川和町）書院並びに諸味蔵の一般公開を行いました。書院では2018年度より始めた同家資料整理事業によってあらたに見つかった資料を中心とした公開ミニ展示、諸味蔵では資料整理作業や同作業を経た資料の収蔵展示を行いました。また期間中、公開講座（11月30日：「中山恒三郎家資料の現在とこれから—民俗資料編—」横浜市歴史博物館学芸員 小林光一郎、12月8日：「中山恒三郎家資料の現在とこれから—古文書編—」横浜開港資料館調査研究員 吉田律人）、公開イベント（12月1日：「Flowers—舞踊と音楽と食の総合芸術—」）を行いました。特にイベントは、中山恒三郎家で代々行っていた菊栽培にちなむ「花」をテーマに、舞踊、ご当主のインタビュー、管楽器演奏を書院前の庭にて行う内容となりました。

期間中は、中山家ゆかりの方々をはじめ、近隣在住

の方々や川和・都筑・横浜の歴史に興味を持つ方々、かつて中山恒三郎商店に勤めていた方々、同地内にある川和保育園に通う親子など、老若男女を問わず多くの方々にお出でいただき、公開期間13日間で513名の市民並びに関係者にご来場いただきました。

ご来場の方々からは、学芸員や当主中山健さんから川和の歴史や中山恒三郎家の歴史の説明を聞いただけでなく、実際に中山家に関係した実物資料を見られたことや最盛期を迎えた庭の紅葉を堪能したことなど、総合的な観点での高い評価をいただきました。インターネットが普及し情報が簡単に手に入る時代になりながらも地元のことを知る機会が決して多いとはいえない現状にあって、歴史だけでなくあらためて季節や自然までも地元で再認識できたことに対する評価であり、また、こうした博物館の館外活動を評価される方も多くいたことに対し、アウトリーチ事業として手ごたえを感じた公開となりました。（小林 光一郎）

2019
9/14-9/30

『図説 都筑の歴史』刊行プレ展示 第6弾

「都筑の歴史—郷土講演会・展示会（2016～2019）を振り返る—」



- ① 都筑図書館の展示
- ② 大柵村絵図(当館所蔵)
- ③ 『図説 都筑の歴史』の表紙

都筑区の区制25周年を記念して、『図説 都筑の歴史』が2019年11月9日に刊行されました。25周年の記念式典では（公財）横浜市ふるさと歴史財団の五味文彦理事長が「日本史の中の横浜—『図説 都筑の歴史』刊行に触れて—」と題し特別講演を行い、刊行に花をそえました。この図説は都筑3万年の歴史を扱った初めての通史であり、「みなと横浜」中心の横浜の歴史に対し、地域に根差した歴史像を提示しており新鮮な内容です。特別協力としてかかわった本財団からは現役・OB合わせて20人が執筆にあたりました。多くの方に手に取っていただき、さまざまな場で活用されることを願う次第です。

刊行に先立ち都筑図書館で、『図説 都筑の歴史』刊行プレ展示 第6弾「都筑の歴史—郷土講演会・展示会（2016～2019）を振り返る—」（9月14日～30日）が開催されました。このプレ展示は当館と都筑図書館、都筑区役所3者の合同企画で、2016年6月から始まっ

た図説の編さん事業を広く区民の方に知っていただくため、講演と展示をセットに実施してきました。1回目が「原始・古代の都筑」（2016年11月）、2回「見て・感じて・考える 都筑の中世」（2017年11月）、3回「都筑の江戸時代—村絵図は語る—」（2018年2月）、4回「明治維新以後の都筑」（2018年9月）、5回「港北ニュータウンの成り立ちから見た現代」（2019年2月）というラインナップで、毎回当館等が所蔵する実物資料を図書館で展示し多くの方に観ていただきました。6回目となる今回は過去5回の展示を振り返りながら、当館所蔵の「大柵村絵図」（江戸期）と大日本正菊会編『菊の香』（明治43年）を展示しました。大柵村は現在のセンター北駅周辺にあたり、絵図は開発前の港北ニュータウンの姿がうかがえる好資料。『菊の香』は明治～昭和期に「川和の菊」として全国的に有名な菊園「松林甫」当主中山恒三郎等が刊行した菊花の写真譜です。ともに都筑の歴史を語る上で欠かせない資料です。（井上 攻）

みたび大壁建物に現れた 渡来文化の痕跡を追って

文 鈴木靖民

これまで川崎市にある七世紀後半の橋樹郡家跡の大壁建物に注目し、渡来文化とのつながりを推定してきました(四二・四三号)。

大壁建物は百済にもとがあり、大和の飛鳥・葛城や近江に移住した渡来人たちが四方の側面の部分を細長く溝状に土を掘り(布掘りという)、そこに柴や板を立てて壁を作って囲い、土倉のような方形の建物に仕上げていました。収納物を容れる独特な施設と考えられます。二〇一八年一月には飛鳥の一部に当たる奈良県高取町の市尾カンデ遺跡で、これまで最古の四世紀末五世紀初めの三〜四期、約一六棟が検出されたと報じられました。

青柳泰介さんによれば、神奈川県



市尾カンデ遺跡 大壁建物跡

に限ると、茅ヶ崎市下寺尾西方、平塚市六の域、天神前の各遺跡があり、相模国高座郡家(高倉評家)跡、相模国大住郡家または相模国府関連の遺跡が目立ちます。また海老名市本郷遺跡、厚木市鳶尾遺跡は大型建物を含む大集落の跡で、愛名宮地遺跡は山寺です。これらは七世紀後半から八、九世紀にかけての建物です。二〇一六年秋、東名高速道路側の厚木市御屋敷添遺跡の南に接した地点の調査でも、一筋の溝跡があり、大壁建物の造りかけか、土堀跡かと思われます。御屋敷添は愛甲郡のはずれに位置する七世紀後半の郡家以前の建

大壁建物を
探しましょう!!

物群跡かとされますが、近くの伊勢原市石田・一本松(Ⅱ)遺跡でも、八世紀後半〜九世紀前半の五棟の大壁建物に似た遺構があります。最近、これに関して、田尾誠敏さんは相模川流域の西に相武評を鮎河評と大住評に分け、東に高倉評を立てたという注目すべき説を出されました(『厚木市史たより』二二)。

実は中田英さんが一九八一年以来、神奈川県を中心にして東国の溝をもつか、布掘りで周囲がつながる掘立柱建物が一八棟あることをすでに指摘していました。

二〇一七年十二月〜一八年一月、鎌倉市に住む岡本真知さんが、同市御成町の今小路西遺跡(No.二〇二)の

報告書にも大壁建物跡が載っているとして博物館に來られました。今小路西遺跡は広い範囲ですが、御成小学校校内の鎌倉郡家政庁跡が古代のメインであり、一九八三〜八五年の調査で、鎌倉郡家の政庁のコの字型の建物配置と変遷が明らかになりました。当時、私たちは古代の鎌倉郡家の実態を討議しました(『神奈川県地域史研究』一〇)。しかしその後、鎌倉郡家の説明は進まず、国の史跡となった橋樹、高座両郡の遺跡に比べると研究、保存、活用という点で大きく後れを取っていました。

ところが二〇〇六〜七年、郡家跡の北のマンション建設にともなう調査で、八世紀の面で主軸が真北より少し東に傾いた三〜四棟の溝もち遺構が出現していたのです(ただし七世紀後葉〜末のほぼ真北に主軸をとる掘立柱の総柱建物(倉庫)群が廃されたのちに建てられています)。報告書は柱穴間が溝で結ばれた掘立柱建物としますが、いわゆる大壁

建物的一种といえるものです。これまで大上

周三さんが郡

家隣接の倉庫(屋)であったと論じられました(『神奈川県考古』四五)。一方、郡家の正倉つまり倉庫であった可能性も否めません。二〇一八年夏、横浜市栄区の田谷町堤遺跡でも、奈良・平安時代の三方に溝のある建物跡が二つの時期に建っていたことが分かりました。横須賀市鳴居の小荷谷遺跡でも、規模の大きい側柱建物とともに布掘建物が建つといわれ、これも三浦郡家関連の大壁建物かとみられます。

大住郡以外の橋樹、高座、鎌倉三郡の一部の郷(里)は、現在の横浜市の東辺と西辺に含まれるので、それぞれの遺跡は横浜の歴史と無縁でないのです。

こうして大壁建物の類が増える、私は仮説を広げてみたくなります。神奈川県、つまり武蔵、相模では地方社会の統治のための拠点施設として評家を設ける際に、初期には稲を収める倉庫、儀式や執務に当たる政庁、全体を囲う堀や門などの一定の型がまだ定まっておらず、建物の様式も様々だったのではと思います。平塚市の大壁建物は国府域に大

住郡家があったところとです。大壁建物のすべてが百済由来とは限らないにせよ、朝鮮各地からの渡来人との関係のもとに造られた建物が多いと理解できそうです。

古代の史料によって、橋樹郡は飛鳥部吉志氏、高座郡は飛鳥部(吉士)氏、鎌倉郡は上村主氏という他からきた渡来人の後裔がそれぞれ住んでいたことが知られます。彼らの先祖が六世紀に屯倉の管理者になって以来、倉庫と貢納物の管理を委ねられ、ついで評の倉の造営、管理、評の経営などに関与したのでしょう。こうした造営や経営には渡来人系の知識・技術の提供に加えて、有力者の評造クラスとの協働もありえたはず(『鳶尾遺跡』など)は官衙の影響か、別の系譜の建物かもしれません。

『厚木市史たより』一九)。今後、引き続き、大壁建物にまつわる多様な可能性を想定し、横浜の歴史に留意する必要があると考えます。



大壁建物復元模型



写真はすべて高取町教育委員会提供(館長は除きます)

4月1日(水) リフレッシュオープン

企画展

横浜市新市庁舎完成記念企画展「明治・大正 ハマの街 - 新市庁舎建設地・洲干島遺跡」
4月1日(水)～7月5日(日)

3月31日(火)まで

改修工事のため、休館しております。博物館館内の展示室や図書閲覧室など館内施設と駐車場は利用できません。
大塚・歳勝土遺跡公園は通常通り開園いたします。(大塚遺跡休園日:月曜日(祝日の場合は翌日))

休館中は、遺跡公園内工房に会場を移して、ワークショップ「れきし工房」や遺跡公園ガイド、出張ミニ展示を開催しています。

横浜市史資料室 連携展示

出張ミニ展示 *情報は随時HPやツイッターで更新していきます。



戸部小学校の140年と横浜

1月15日(水)～4月10日(金)

9:30～17:00

○休室日:毎週日曜日、

2月17日(月)、3月16日(月)

○会場:横浜市史資料室
(横浜市中央図書館 地下1F)

○アクセス:
京浜急行線「日ノ出町」駅下車徒歩5分



僧侶がもつ水瓶の破片 (平安時代)

古代のムラの仏堂
—『図説都筑の歴史』より—

2月21日(木)～3月10日(火)

火～金 9:30～19:00、

土日月祝 9:30～17:00

○会場:都筑図書館

○アクセス:
横浜市営地下鉄「センター南」駅
下車徒歩6分

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内 (4/1～)

○開館時間

9:00～17:00 (ただし券売は16:30まで)

大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

○休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

○常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

■特別展・企画展の観覧料は別に定めます。

■毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。

■「身体障害者手帳」「愛の手帳(療育手帳)」「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に手帳をご提示ください。

■補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)とご一緒に入館できます。

○交通

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車、1番出口から徒歩5分
(「センター北駅」へは横浜駅から23分、新横浜駅から12分)
・駐車場あり (1時間200円)



[URL] <https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

[twitter] @yokorekihaku

横浜市歴史博物館は長期休館中ですが、隣の大塚・歳勝土遺跡公園は通常どおり開園しています。そのため、多くの人が日々来園する大塚・歳勝土遺跡公園の茅葺屋根建物を修繕する「かやぶき屋根プロジェクト」は、今年度も文化庁の「ふるさと文化財の森推進事業システム推進事業普及啓発事業」として、活動しています。

今年度の「かやぶき屋根プロジェクト」は昨年度から大きく進歩して、より広く茅や茅葺屋根に興味を持っていただけるように、ボランティアの募集を始めました。今まで観光地の古民家などで見学していた茅葺屋根を自分たちの手でメンテナンスし、長い期間さらに多くの人たちに見てもらうことで、地域が文化財を守り育てていく体制を作っていきたいと考え、計画したものです。12月の時点で新たに3人の方にボランティアとして協力いただきました。大塚・歳勝土遺跡公園内の復元建物(竪穴住居・高床建物)の茅葺屋根の簡易な修繕、静岡県富士宮市に所在する朝霧高原茅場での茅刈りをして、茅や茅葺について楽しく学んでいただいています。

活動は全7回を予定しています。先述したとおり、ボランティアの募集と研修、復元竪穴住居の修繕、茅刈りです。

11月の修繕はここ数年、大塚・歳勝土遺跡公園で実施している遺跡フェスタと同日の11月16日(土)としました。当日は晴天に恵まれ多くの人が遺跡フェスタを目的に来園していました。「かやぶき屋根プロジェクト」は大塚遺跡の奥にある復元竪穴住居の清掃、周辺樹木の枝打ち、入口屋根の応急処置、差茅を実施しながら、その様子を興味深く眺める来園者に対して活動内容の説明、ボランティア募集のチラシを配布しました。

12月7日(土)は今年度1回目の朝霧高原茅場での茅刈りです。この日、今年度の活動にご参加いただいているボランティアさんのうち2人が朝霧高原に赴き、朝霧高原茅場で茅を刈るために必要な、「茅刈り人」になるための研修を受けていただきました。実習と座学、筆記試験が伴うこの資

格ですが、皆さん緊張した面持ちながらも見事に資格を手に入れひと安心。ホッとした表情で手渡された茅刈り人の証たるキャップをかぶってニコリ。無事研修は終了したのでした。

2月9日(日)には、こちらも初めての試みですが、「かやぶき屋根プロジェクト」の活動報告会を大塚・歳勝土遺跡公園内工房にて実施しました。

そして2月16日(日)には朝霧高原茅場での活動において多大なるご協力をいただいている「朝霧高原活性化委員会」が主催する報告会にて茅刈り人1名が代表して「かやぶき屋根プロジェクト」について発表させていただきました。

3月9日には朝霧高原にて2回目の茅刈りを実施して令和元年度の活動は終了となります。

これまでよりも新しい要素がプラスされた「かやぶき屋根プロジェクト」ですが令和2年度以降も実施予定です。ボランティア募集も継続していきます。ご興味を持たれた方がいらっしゃいましたら、当館HPやTwitterなどのSNSを中心に情報を発信してまいりますので、チェックをお願いいたします。

HP: <https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>
Twitter: @yokorekihaku



茅を観る人から葺く人へ

ボランティア募集
始めました!

大塚・歳勝土遺跡公園だより

文「茅刈り人」達

高橋健 羽毛田智幸 橋口豊 齋藤宣政

